

クリムトが学んだのは、美術アカデミーではなく工芸美術学校でした。前者が画家や彫刻家といった芸術家を輩出する場所だとしたら、後者は一人前の職人を養成する学校です。そこを卒業したクリムトは、仲間と3人で芸術カンパニー（小さな工務店のようなもの）をつくり、建築装飾を請け負います。当時のウィーンは近代化の只中で、古い城壁を壊して環状道路（リンクシュトラッセ）を作り、その道路沿いには公共建築物などが次々と建てられていきました。その中でクリムトが関わったのは、ブルク劇場と美術史美術館の装飾でした。今回は美術史美術館を覗いてみましょう。



↑美術史美術館正面

正面から入り階段を上った2階の部分にその壁画があります。〈古代ギリシア美術〉や〈エジプト美術〉などを寓意的・擬人的に描いたものです。居並ぶ泰西名画を目当てにこの美術館を訪れる多くの来館者には、ほとんど気付かれることはありません。



↑開口部のあるアーチによって生じたスパンドレル（三角小間）と呼ばれる壁面を中心に描かれています。



↑〈初期イタリア美術〉：フィレンツェのクアトロチェント（アーチ左側）、聖告の天使（アーチ右側）、
ダンテの胸像と少年（柱間）

*上の画像は実写、下は複写（以下同じ）



↑ 〈エジプト美術〉：少女とホルスとトト（左柱の左）、ミイラ、彫像、壁画断片（柱間）

〈初期イタリア美術〉：フィレンツェのクアトロチェント（右柱の右）



↑ 〈初期イタリア美術（ヴェネツィアのクアトロチェント）〉：総督の姿で（左柱の左）

〈古代ギリシア美術〉：タナグラの少女（柱間）、ゴルゴンを付けニケをもつアテナ（右柱の右）



↑〈初期イタリア美術（ローマのクアトロチェント）〉：ティアラを持つ女性（アーチ左）

この他にも〈初期イタリア美術（フィレンツェのクアトロチェント）、（フィレンツェのチンクチェント）〉の壁画もあります。特別に照明をしているわけでもなく、近寄って見ることもできない（フラッシュも届きません）ので、しっかりと見ようと思ったら双眼鏡を持参しましょう。

(HF)

